

牧師室から (2020.10. 18)

本日 (18日) は礼拝後に長椅子の下のスベールの張替えを行う。そもそも8月中旬に行く予定であったが、暑さを避けて、本日にまで延期となった。

教会の椅子は案外大事であると思った。説教の時、会衆を見回すと、おおよそ右側に座る人、左側の人、また前方か後方かでそれぞれの人が大体決まった辺りのところに座っておられる。前から見て、あの人はあの辺にいるはずなのに今日はおられないなあと思ったりする。勿論体の弱さのためではなくマイシートを確保して譲らないというのはどうかなと思うが、おおよそ自分の落ち着く席に座っておられるのはよいと思う。

以前ある教会で、講壇から見て前から二番目の右側にずっと座っていた長老がおられたが、なぜかという、前任長老から、自分がいなくなった後はここに座ってくれと言われたということであった。そして今度はその長老が重篤な病になり、召される時が近づいたら、次の長老にここに座ってくれと言い伝えて、後任長老もそこに座ることとなった。

また東北の古い教会にいた時には、その会堂が特殊な形をしていたので、会堂の長椅子もその形に合わせてそれぞれ長さの違う特注で作られたものであり、配置の交換ができないものであった。この椅子のここにはあの方が座っておられ、またその前には私がお会いしたことのない先達が座っておられ、その前にはまた別の方が、と黒光りした長椅子を見ながら想いを馳せていた。教会の長椅子はその先達の信仰を無言で伝えているようであった。

余談であるが、教会の長椅子やオルガンの長椅子のことを、ドイツ語では Bank (バンク) といい、英語では bench (ベンチ) に相当する。ところがややこしいことに、これは銀行 (バンク) と同音異義語であるのだ。銀行のバンクが日本語で定着しているので、最初ドイツ語でこれらを聞いたとき、教会の長椅子が「教会銀行」(?), オルガンの長椅子が「オルガン銀行」(?) というへんてこりんな連想があった。が、使っているうちにそのイメージはすぐに払拭された。

張り替え作業については、どうか怪我の無いように注意して、ご協力頂きたく思っている。そしてこの長椅子に座っておられた方々を思い起しつつ。

(鈴木淳一牧師)